

# 平成14年度ニホンジカ (*Cervus nippon*) 生息密度調査結果

永田幸志\*

## Note on population density of Sika deer (*Cervus nippon*) in the Tanzawa Mountains.

Kouji NAGATA\*

### I はじめに

現在、神奈川県丹沢山地においては、ニホンジカの採食を要因とする自然植生の劣化や農林業被害が発生しており、一方でニホンジカの栄養状態の悪化等も懸念されている。

神奈川県では、こうした問題への対策として、丹沢山地の生物多様性の保全と再生、及び農林業被害の軽減を目指すとともに、長期的な観点から地域個体群の安定的な存続を図ることを目的として、平成14年度にニホンジカ保護管理計画を策定した。計画策定にあたって、基礎資料作成の為、平成12年度から13年度にかけて丹沢山地24か所において生息密度調査を実施したが、平成14年度は、保護管理事業におけるモニタリングの一環として、平成12年度、13年度の調査結果から、特に生息密度の高かった調査地において調査を実施することとした。

### II 材料と方法

調査は平成12年度、13年度の調査(以下、前回の調査)と同様、区画法(Maruyama and Furubayashi 1983)で行った。調査地は、前回の調査で特に生息密度の高かった丹沢湖、堂平、熊木沢、東沢を選定した(図1、表1)。調査時期は、前回の調査同様、森林内の見通しがよくなり精度の高くなる落葉後(1月8日から1月24日)に実施した。

調査時には各調査員がトランシーバーで連絡し、目撃個体の重複を確認した。また、調査結果の集計時にも、目撃時間と目撃場所から重複して目撃したと判断できる個体については、重複カウントを消去して集計を行った。

### III 結果及び考察

調査結果を表2、図2に示した。重複カウントが不明だった目撃個体が存在したことから、生息密度は最大値と最小値で示した。各調査地とも、前回の調査結果同様高い生息密度となり、丹沢湖は特に高い生息密度となった。調査地により前回の調査結果

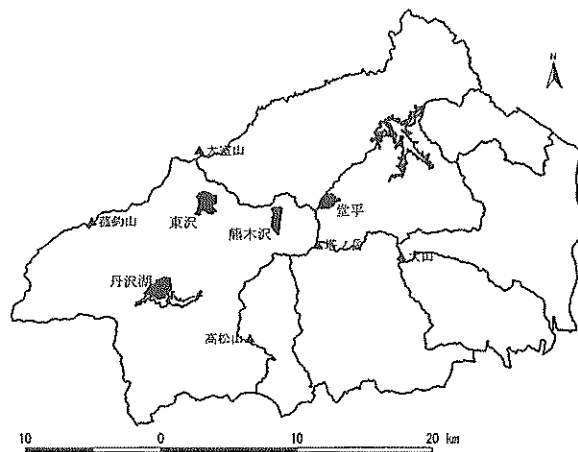


図1 調査位置図

\* 神奈川県自然環境保全センター 野生生物課 (〒243-0121 神奈川県厚木市七沢657)

表1 調査地の概要

調査地名	所在市町村	大流域エリア	標高(m)	主な植生	狩猟に関する区域
丹沢湖	山北町	丹沢湖	350~750	落葉広葉樹林、スギ・ヒノキ人工林	鳥獣保護区
堂平	清川村	中津川	880~1500	落葉広葉樹林、スギ・ヒノキ人工林	鳥獣保護区
熊木沢	山北町	丹沢中央	770~1450	落葉広葉樹林、スギ・ヒノキ人工林	鳥獣保護区
東沢	山北町	中川川上流	550~1130	落葉広葉樹林、スギ・ヒノキ人工林	鳥獣保護区

※大流域エリア：丹沢大山保全計画におけるエリア名

表2 平成14年度生息密度調査結果

調査地	調査日	調査面積(km <sup>2</sup> )	目撃頭数	生息密度(頭/km <sup>2</sup> )
熊木沢	2003. 1. 8	1.21	25-27	20.7-22.3
堂平	2003. 1. 15	1.20	45-49	37.5-40.8
東沢	2003. 1. 22	1.88	32-35	17.0-18.6
丹沢湖	2003. 1. 24	1.65	99-103	60.0-62.4

※重複を消去できなかった個体が存在したため、目撃頭数・生息密度は最大値と最小値で示した。

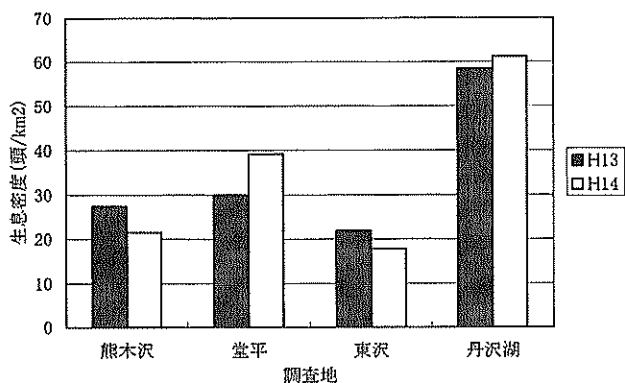


図2 生息密度調査結果(H13, 14)

※ 調査結果は中間値で示した。

からの変化が異なるが、調査法のもつ精度の限界や2か年の調査結果間の変化であるので、この結果のみから生息密度の増減を考察することはできない。

生息密度調査は今後も継続して行い、他の調査結果と合わせて保護管理事業実施のための基礎的資料とすることとしている。

#### IV 引用文献

Maruyama, N and Furubayashi, K (1983) Preliminary examination of block count method for estimating number of sika deer in Fudakake. Journal of Mammalogical Society of Japan, 9 : 274-277